

ルクセンブルク経済・金融情勢（２０１３年８月前半）

１．経済

●アルセロール・ミタル社、２０１３年第２四半期の売上高は２０，１９７百万ドル（同年前四半期１９，７５２百万ドル）、利払い・税・償却前利益（EBITDA）は１，７００百万ドル（同１，５６５百万ドル）、純損益は７８０百万ドルの赤字（同３４５百万ドルの赤字）であった。原材料価格及び鉄鋼需要の予測以上の低下に影響を受け、純損失が増加した。（１日付ヴォルト紙電子版）

●カーゴルクス社、３日よりウィーンへ週１で就航を開始。既存のハノイ及び香港からの復路便にウィーンが経由地として追加される。（２日付ヴォルト紙電子版）

●７月のインフレ率は年率換算で１．８％（６月は同２．１％）、また２０１３年及び２０１４年のインフレ率予測は１．８％である。（７日付統計局プレスリリース）

●欧州委員会によると、ルクセンブルク及び蘭の携帯電話通話料はＥＵで最も高い水準で、最も低い水準であるリトアニアより約８倍の料金がかかる。（７日付ヴォルト紙）

●カーゴルクス社、キリスト教労働組合連合（ＬＣＧＢ）及びルクセンブルク独立労働組合連合（ＯＧＢＬ）と、２０１２年９月に破棄されていた労使協定の２０１４年末までの延長について８日に合意に至った。今後は２０１５年以降の労使協定について協議がなされる。（８日付ヴォルト紙電子版）

２．金融

●ドイツ銀行グループ、当国における同グループ全体の雇用人数の２３％に当たる１７５名の人員削減について３０日に労働組合と合意した。内訳としては、Deutsche Postbank Internationalで１０４名（全１５７名中）、Deutsche Bank Luxembourgで３３名（全３００名中）、Sal. Oppenheim Luxembourgで２６名（全１６６名中）、DWS Investmentで１２名（全１３７名中）が削減される。（２日付ヴォルト紙）

●当国保険セクター、２０１２年第４四半期より成長傾向が続いていたが、２０１３年第２四半期の全体の保険料収入は前年同期比▲１０．１５％であった。（３日付ヴォルト紙電子版）

●ルクセンブルク金融監督委員会（ＣＳＳＦ）、日本の金融庁及び公認会計士・監査審査会と監査監督上の協力に関する書簡の交換を実施。（６日付ＣＳＳＦコミュニケ）

●ＩＮＧルクセンブルク、２０１３年上半期の純利益は６３．１百万ユーロ（２０１２年上半期は同６２百万ユーロ）で、前年同期比で僅かに増加。特に、法人部門及びリテール部門において業績が好調であった。（１０日付ル・コティディアン紙）

●格付会社フィッチ、９日にルクセンブルクの格付を「ＡＡＡ」（継続）と発表。（１０日付ヴォルト紙電子版）

3. 政府

●シュナイダー経産相及びハンセン高等教育・研究相、NASAのエイムズ研究センター(米カリフォルニア州所在)のサイモン・ピート・ワーデン(Simon Pete Worden)所長と1日に当国で会談。ルクセンブルクの研究者と同研究センターの協力の可能性につき話し合われた。(1日付経産省コミュニケ)

●フリーデン財務相、ルクセンブルクにおける人民元ビジネスの重要性等について説明。(1日付財務省コミュニケ)

※ 当国政府機関の公表資料や各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。